

令和2年度第1回(第50回)栗東歴史民俗博物館協議会 議事録

開催日時 令和2年9月27日(日曜日)10時00分から11時00分まで

開催場所 栗東歴史民俗博物館 研修室

出席者

協議会委員 西尾悦子(会長)、月野みつ(副会長)、大西洋子、大橋信弥、
奥野初恵、川那部隆徳、國賀由美子、澁江善光、山本喜三雄
の各委員(9名)

事務局 伊勢村文二(教育部長)
片岡豊裕(教育部次長兼スポーツ・文化振興課 課長
兼歴史民俗博物館 館長)
加藤宏之(歴史民俗博物館 副館長)
大西稔子(歴史民俗博物館 主幹・学芸員)
中川敦之(歴史民俗博物館 主査・学芸員)

欠席者

協議会委員 吉見静子 委員

傍聴者 0名

概要

1. あいさつ

2. 協議事項

- ①令和2年度上半期の博物館事業について
- ②令和2年度下半期の博物館事業について
- ③令和2年度第2回(第51回)栗東歴史民俗博物館協議会の日程について
- ④その他 博物館協議会委員の任期について

3. 閉会

議事

1. あいさつ

開会のあいさつ（西尾 悦子 会長）
（伊勢村 文二 教育部長）

2. 協議事項

①令和2年度上半期の博物館事業について

資料に沿って、事務局 大西 稔子 主幹より説明。

（委員） サテライトオフィスとはどのようなものか。

（部長） 新型コロナウイルス感染症対策の一環として整備するものである。

新型コロナウイルス感染症の第一波の際、大津市役所で職員の集団感染が発生し、市役所が閉鎖する事態となった。

その結果、行政事務が停滞し、市民生活に著しい支障が生じることとなった。

今後、栗東市役所でそういった事態が発生した場合であっても、基幹業務を停滞させないための方策が総務課を中心に検討され、庁舎外・出先機関においてサテライトオフィスを整備する場所として、歴史民俗博物館の研修室が適当と判断された。

具体的には、総合窓口・保険年金・税務といった業務の継続のために用いられる。

（委員） 新型コロナウイルス感染症対策の必要性から、サテライトオフィスを整備することについては理解できるが、サテライトオフィス開設時には、館内の空気環境に十分配慮していただきたい。

換気のため窓を開けることになるだろうが、展示室の空気環境に影響が出ないようにすることが必要である。

（部長） 職員・来館者の動線が交わらないようにする工夫も含め、総務課と歴史民俗博物館で十分に協議したうえで運用する。

②令和2年度下半期の博物館事業について

資料に沿って、事務局 大西 稔子 主幹より説明。

（委員） 10月3日（土曜日）開催の「RISS ミュージアムロビーコンサート 37」（お月見コンサート）について、雨天時の館内開催の場合の定員について、先日、栗東音楽振興会（RISS）と歴史民俗博物館で協議し、70名を上限とすることとした。

その後、国から、新型コロナウイルス感染症対策の新たな指針が示され、

コンサートについては、クラシックなど、発声をともしない場合には、定員を収容人員の上限までとしてもかまわないとされた。

このようなことから、10月3日（土曜日）の雨天時の館内開催の場合の定員についても、上限を定めなくて良いように思うのだが、いかがか。

- (館 長) 栗東音楽振興会（RISS）の会長・事務局と協議し、確認したい。
- (会 長) 多くの集客が見込める事業ではあるが、無理をする必要はないのでは。
- (館 長) 十分に協議していく。
- (委 員) 前回の協議会でも、収蔵庫が飽和状態にあることへの懸念を示したが、その後の検討状況などをお聞かせいただきたい。
- (館 長) 内部で検討している段階である。
収蔵庫を増設するためには財源も必要であり、結論は出ていない。
内部で協議を重ねていきたい。
- (委 員) 検討をはじめから、予算化するまでにはどのような手順が必要なのか。
- (館 長) まず、市の中長期的な財政計画に計上する必要がある。
- (委 員) 仮に予算化されても、さまざまな準備が必要となるほか、建物が建ってすぐに運用できるものでもないと推測する。
速やかに手順を踏んで進めていかないと、時間が経過するばかりで、歴史民俗博物館の活動に制約がかかる結果にならないかと危惧している。
- (部 長) 文化財全般をどのように保存・活用していくかという問題と考える。
歴史民俗博物館としては、資料の寄託・寄贈をどのように受けていくのかというところから検討する必要がある。
収蔵庫を増設するためには、市の中長期的な財政計画への計上、財源の確保が必要であり、全体のバランスを見ながらになる。
市では、今年度と来年度の2か年で、「文化財保存活用地域計画」の策定を進めており、その中でも検討していきたい。
- (委 員) 歴史民俗博物館として、今後、どのような資料が増えていくのか、それらを受け入れるため、どの程度のスペースが必要なのか、検討し把握しておかなければならない。
埋蔵文化財については、出土文化財センターもあるが、どのように保存していくか、あわせて検討していく必要がある。
- (部 長) 方針を検討し、計画化を進めていきたい。
- (委 員) 学芸員にお尋ねするが、資料の寄託・寄贈について、方針は持っているのか。
- (事 務 局) 歴史民俗博物館のホームページにもアップしているが、「資料収集方針」を持っており、栗太郡・栗東市に関連する資料を収集するとしている。
- (委 員) 内規でも良いので、収集する資料を選択するためのランクの設定が必要

と考える。

地域の方々には言いづらいこととは思いますが、「既に収蔵している資料と同じものは受け入れない」などの方針を持たないと、収蔵庫はすぐに飽和状態となってしまう。

- (委員) 「文化財保存活用地域計画」は2か年で策定するということが、歴史民俗博物館に関することも盛り込まれるのか。
- (館長) 担当はスポーツ・文化振興課の文化財保護係だが、歴史民俗博物館の職員も事務局に入っている。
文化財の保存・活用に関する計画であり、歴史民俗博物館が置かれている状況も念頭に置いている。
- (委員) 近隣市でも、策定が進められているのか。
- (館長) 草津市では、既に策定された。
- (委員) 「文化財保存活用地域計画」の内容をどのように具体化していくはともかくとして、文化財の置かれた状況について声を上げ続けることが大切である。

③令和2年度第2回(第51回)栗東歴史民俗博物館協議会の日程について

事務局より提示した日程(案)の中から、委員各位のご都合を伺い、
・令和3年1月21日(木曜日)14時から
に決定。

④その他 博物館協議会委員の任期について

現任の栗東歴史民俗博物館協議会員の任期は、
・平成31年(2019)2月1日から令和3年(2021)1月31日まで
の2か年となっているが、次期委員の委嘱については、年度替わりが区切りとなるよう、
・令和3年(2021)4月1日から令和5年(2023)3月31日まで
の2か年を任期とすることについて事務局より提案し、委員各位のご賛同を得た。

3. 閉会

閉会のあいさつ(月野みつ 副会長)